

広島県経済の動向

令和5年1月15日
商工労働局

目 次

I	経済動向の概要	1
1	国内経済の動向	
2	広島県経済の動向	
II	県内主要製造業の生産動向	3
1	鉄鋼	
2	自動車	
3	造船	
4	一般機械	
5	電気機械	
III	中小企業の動向	5
1	概況	
2	景況感・景況感の変化	
3	前月から変化のあった主な業種	
IV	企業倒産状況	7
1	概況	
2	業種別	
3	原因別	
4	今後の見通し	
V	最近の雇用失業情勢	8
1	県内の有効求人・求職の動向	
2	県内の新規求人・求職の動向	
3	県内の人員整理の状況	
4	完全失業率の状況	

(注)「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

I 経済動向の概要

1 国内経済の動向

(1) 概要

指 標	R4年		
	10月	11月	12月
基調判断	景気は、緩やかに持ち直している		
輸出	おおむね横ばいとなっている		
生産	持ち直しの動きがみられる		持ち直しの動きに足踏みがみられる
設備投資	持ち直している		
雇用情勢	持ち直している		
個人消費	緩やかに持ち直している		
住宅建設	底堅い動きとなっている		
企業収益	一部に弱さがみられるものの、総じてみれば改善している		

(2) 先行き

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染動向に十分注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和4年12月21日公表）】

2 広島県経済の動向

(1) 概要

指 標	R4年		
	10月	11月	12月
基調判断	緩やかに持ち直している		
輸出	供給制約の影響が和らぐもとで、 持ち直している		
生産	供給制約の影響が和らぐもとで、 持ち直している		
設備投資	緩やかに持ち直している		
雇用情勢	一部に弱い動きがみられるもの の、全体としては緩やかに改善 している	全体として緩やかに改善している	
個人消費	持ち直しつつある		
住宅投資	貸家・分譲を中心に持ち直している		

(2) 県内の経済の先行き

先行きの景気は、徐々に改善に向かうことが期待されるが、物価動向や供給制約、感染症などが県内の経済金融情勢に与える影響を引き続き注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」（令和5年1月10日公表）】

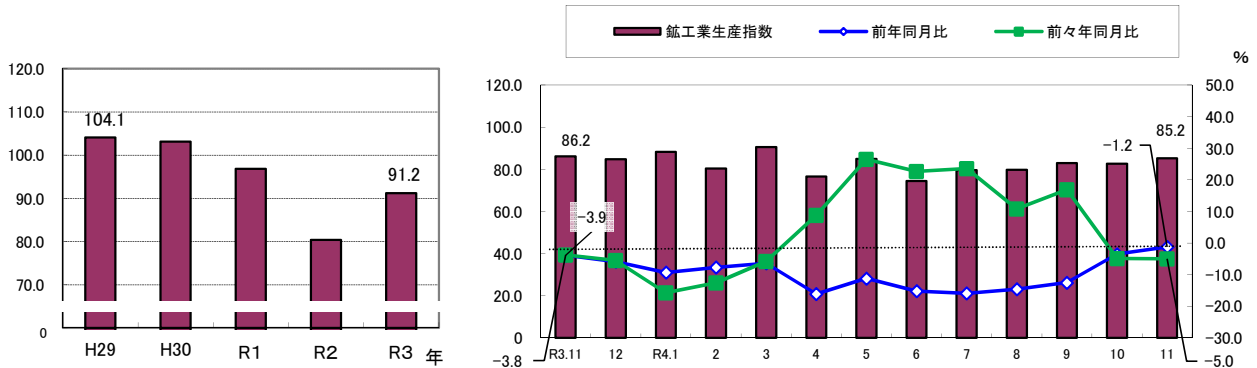
II 県内主要製造業の生産動向

1 鉄鋼(令和4年11月)

11月の鉄工業生産指数(鉄鋼業, 原指数, 速報値, 平成27年=100)は85.2で, 前年同月比で1.2%減少, 前々年同月比5.0%減少となっている。

鉄工業生産指数(鉄鋼業)(年別, 月別・前年同月比・前々年同月比)

【県統計課】

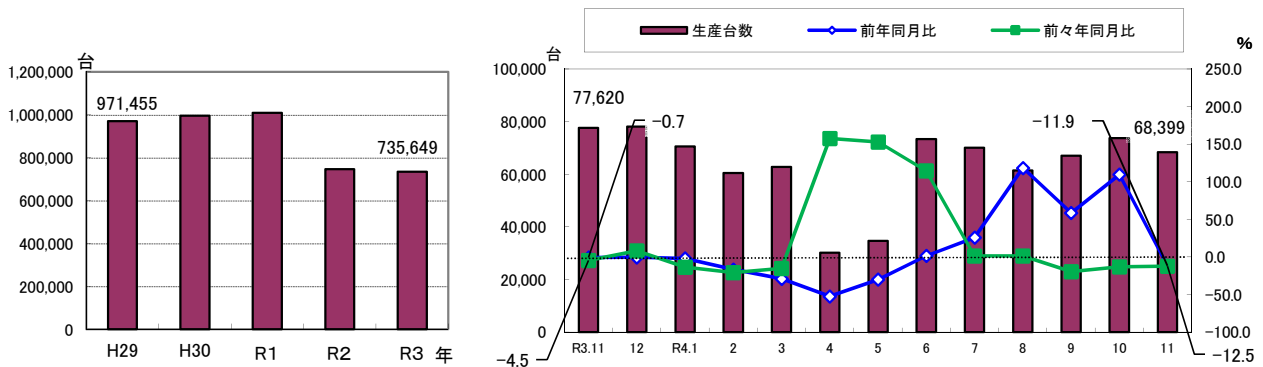


2 自動車(令和4年11月)

11月の国内生産台数は68,399台で, 前年同月比で11.9%減少, 前々年同月比12.5%減少となっている。

自動車生産台数(年別, 月別・前年同月比・前々年同月比)

【マツダ(株)】

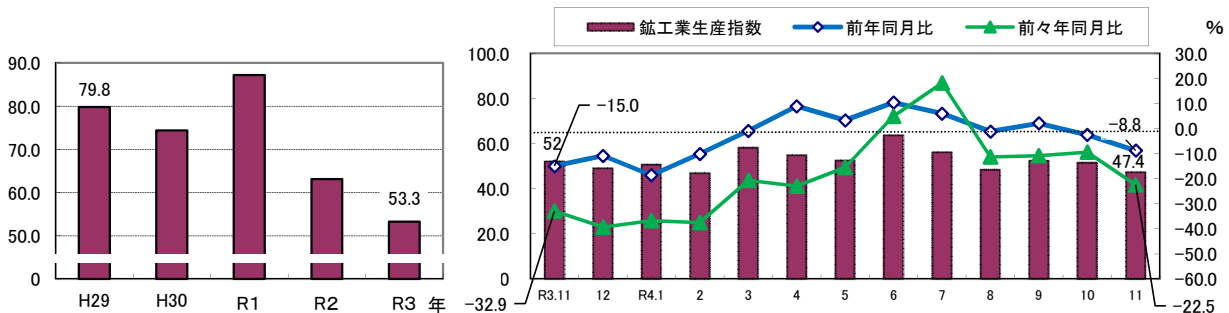


3 造船(令和4年11月)

11月の鉄工業生産指数(造船部門, 原指数, 速報値, 平成27年=100)は47.4で, 前年同月比で8.8%減少, 前々年同月比22.5%減少となっている。

鉄工業生産指数(造船部門)(年別, 月別・前年同月比・前々年同月比)

【県統計課】

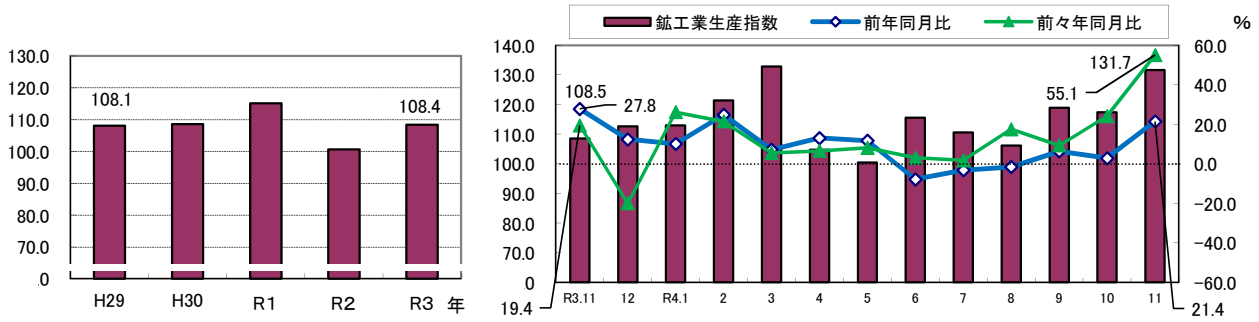


4 一般機械(令和4年11月)

11月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合), 原指数, 速報値, 平成27年=100)は131.7で, 前年同月比で21.4%増加, 前々年同月比55.1%増加となっている。

鉱工業生産指数(一般機械(総合))(年別, 月別・前年同月比・前々年同月比)

【県統計課】

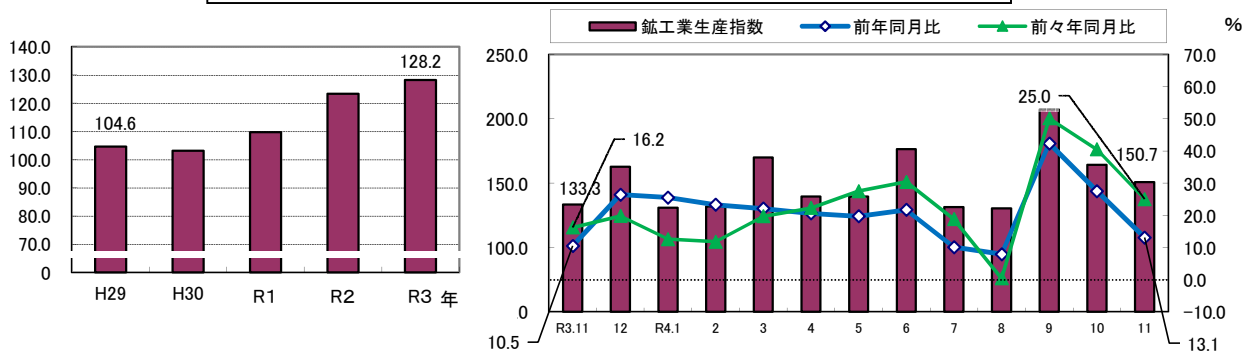


5 電気機械(令和4年11月)

11月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合), 原指数, 速報値, 平成27年=100)は150.7で, 前年同月比で13.1%増加, 前々年同月比25.0%増加となっている。

鉱工業生産指数(電気機械工業(総合))(年別, 月別・前年同月比・前々年同月比)

【県統計課】



Ⅲ 中小企業の動向(令和4年11月)

【広島県中小企業団体中央会（令和4年12月15日時点）】

1 概況

全体を通じて、原材料や電気代等の価格高騰が収益を圧迫し、経営に深刻なダメージを与えている事が窺える。コスト上昇分を価格転嫁にて対応出来ている事業者は少なく、今後の見通しが立たない苦しい状況が続いているため、今後の動向を注視していく必要がある。

自動車関連業種では、国内自動車販売台数は前年同月比+7.0%と3ヶ月連続で増加。マツダ車は12.5%増と6ヶ月連続で増加。また、マツダ車の海外販売に関しては、合計台数は77千台、前年同月比▲4.5%となった。

木材業界では、全国の令和4年11月の新設住宅着工戸数は72,372戸で前年同月比▲1.4%。広島県内の着工戸数は1,624戸で、対前年同月比▲4.0%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「11月の生産・販売状況について（速報）」に基づく

※木材業界に関する記載は11月分のデータを掲載

2 景況感・景況感の変化

業種	10月の景況感	11月の景況感
食料品	やや悪い	やや悪い
繊維・衣服	やや悪い	やや悪い
木材	やや悪い	やや悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	やや悪い	やや悪い
化学	やや悪い	やや悪い
プラスチック製品	やや悪い	やや悪い
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼(铸件)	普通	普通
金属製品	普通	普通

業種	10月の景況感	11月の景況感
一般機械器具	やや悪い	普通
電気機械器具	やや好況	やや好況
自動車部品	普通	普通
造船	普通	普通
建設	やや悪い	やや悪い
トラック輸送	やや悪い	やや悪い
内航海運	やや悪い	やや悪い
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

(単位：業種)

景況感	10月	11月	増減
好況	0	0	0
やや好況	1	1	0
普通	5	6	1
やや悪い	13	12	▲1
悪い	1	1	0

3 前月(10月)から変化のあった主な業種

業種	10月の景況感	11月の景況感	変化の理由・状況
一般機械器具	やや悪い	普通	<p>・スポット受注や出荷時期の変更が主な要因となり、11月度の売上は前月比20%増加、前年同月比は10%増加となった。また、日工会の11月24日発表の10月工作機械受注実績は前年同月比5.5%減の1410億6200万円と24ヶ月ぶりの減少となったが、2ヶ月連続の1400億円超。今後も、自動化や工程短縮、環境規制対応の需要が見込め、一時的な調整はあっても大崩れはない見込みである。</p> <p>【広島県東部機械金属工業協同組合】</p>

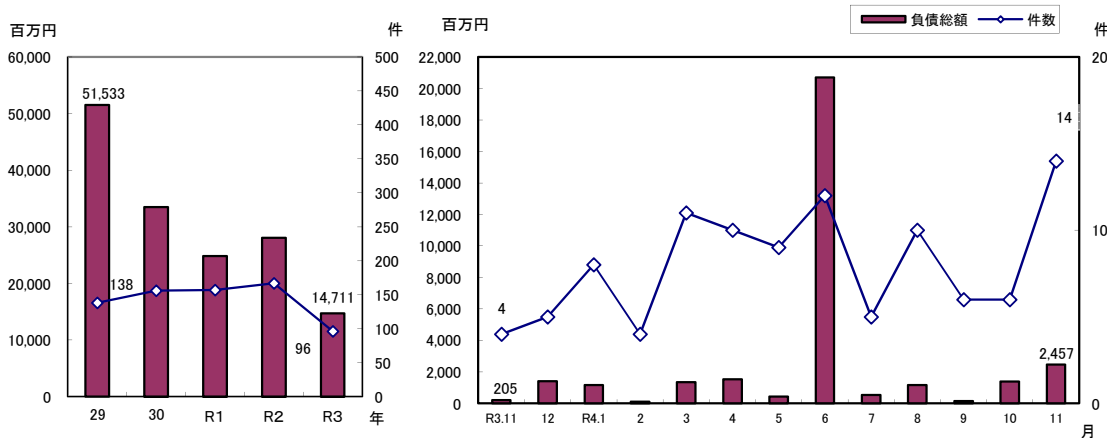
IV 企業倒産状況(令和4年11月)

1 概況

- ・負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が14件、総額24億5,700万円であった。
- ・前月比で件数は8件増加し、負債総額は10億5,900万円増加した。
- ・前年同月比では、件数は10件増加し、負債総額は22億5,200万円増加した。
- ・大型倒産(負債総額10億円以上)の発生はなかった。

区 分	令和4年9月	令和4年10月	令和4年11月
件 数 (前年同月比)	6件 (33.3%減)	6件 (25.0%減)	14件 (250.0%増)
負債総額 (前年同月比)	143百万円 (76.4%減)	1,398百万円 (80.17%減)	2,457百万円 (1098.5%増)

企業倒産件数・負債総額(1,000万円以上)(年別, 月別・前年同月比)



2 業種別

件数は、製造業が5件、卸・小売・飲食業が3件、建設業、サービス業が各2件、運輸・通信業、その他が各1件となった。

負債総額では、建設業、卸・小売・飲食業、運輸・通信業、サービス業、その他、製造業の順となった。

3 原因別

原因別では、販売不振が12件、他社倒産余波、既往のシワ寄せが各1件であった。

4 今後の見通し

令和4年11月度の倒産件数は14件と前年同月比3ヵ月ぶりの増加となり、令和2年5月以降31ヵ月連続で20件以下の低水準が続いた。ただ、令和2年8月以降では最多の件数となり、負債1,000万円に満たない小規模倒産を含めると19件の破産が発生、令和2年5月以降最多件数となっている。業歴別倒産状況では業歴30年以上が3件、20年以上30年未満が2件、10年以上20年未満が6件と業歴10年以上の倒産が全体の78.5%を占め、前月10月度では業歴10年以上の倒産が全体の83.3%と比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。中でも11月に破産した(株)因島スーパーや10月に破産した(株)猫島商店は長年の業歴を背景に地場での知名度が高く、倒産による影響は地場企業や一般個人に波及している。原因別にみると販売不振が12件で最多で、既往のシワ寄せ、売掛回収難を合計した不況型倒産は13件で全体の92.9%と大半を占める中、原油価格高騰の物価高、円安による輸入物価高騰、海外需要増加による仕入単価上昇が続くなど営業環境は厳しく、経済情勢の先行きも楽観視できない状況にある。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は11月度14件中4件発生し、これまでの累計は99件(負債総額1,000万円以上)となり、倒産に占める新型コロナウイルス関連倒産の割合は高まりつつある。

インバウンドを中心とした経済復興によりコロナ禍の解消が進みつつあるが、あらゆるコスト高による「複合危機」への対応、インターネットや通信販売、フリーマーケットサイトの普及にともなう国内外の企業との販売競争など営業環境は厳しさを増している。

業歴の長い企業に於いても薄利や赤字が続き財務内容の構築が進んでいない先では、近年のコスト増についていけず資金繰りのひっ迫が進み倒産に至るケースも見受けられる。更に来年以降、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うセーフティーネット融資の返済が始まることから、企業動向へのより一層の注視が必要と言える。

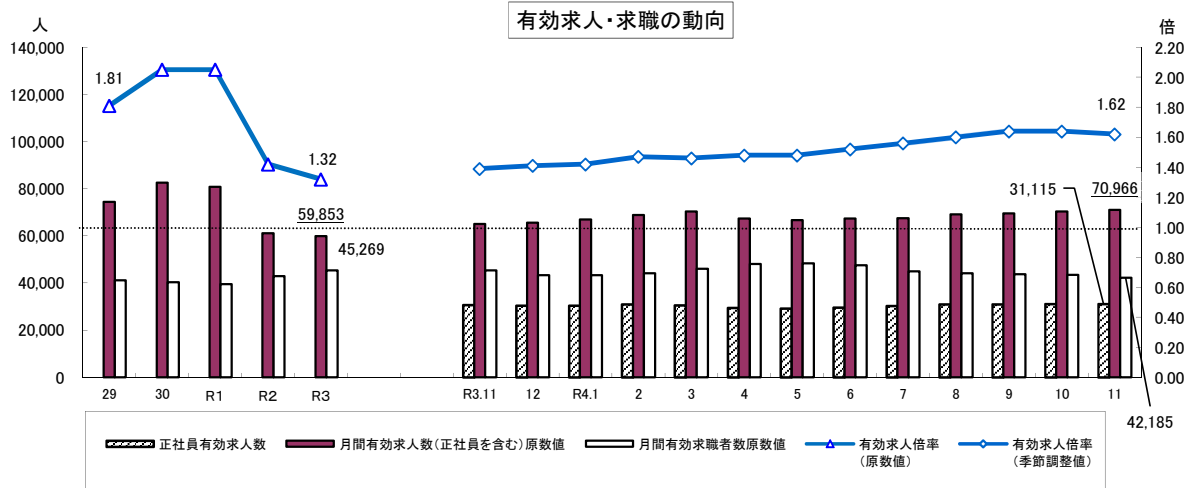
【(株)東京商工リサーチ(12月15日時点)】

V 最近の雇用失業情勢(令和4年11月)

1 県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和4年9月	令和4年10月	令和4年11月
有効求人倍率<季節調整値> (前月比)	1.64倍 (+0.04ポイント)	1.64倍 (±0ポイント)	1.62倍 (▲0.02ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.19倍 (+0.1ポイント)	1.22倍 (+0.13ポイント)	1.25倍 (+0.12ポイント)

【広島労働局】



(注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人人数をパートタイムを除く常用有効求職者数(派遣労働者や契約社員を希望する者も含む)で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。

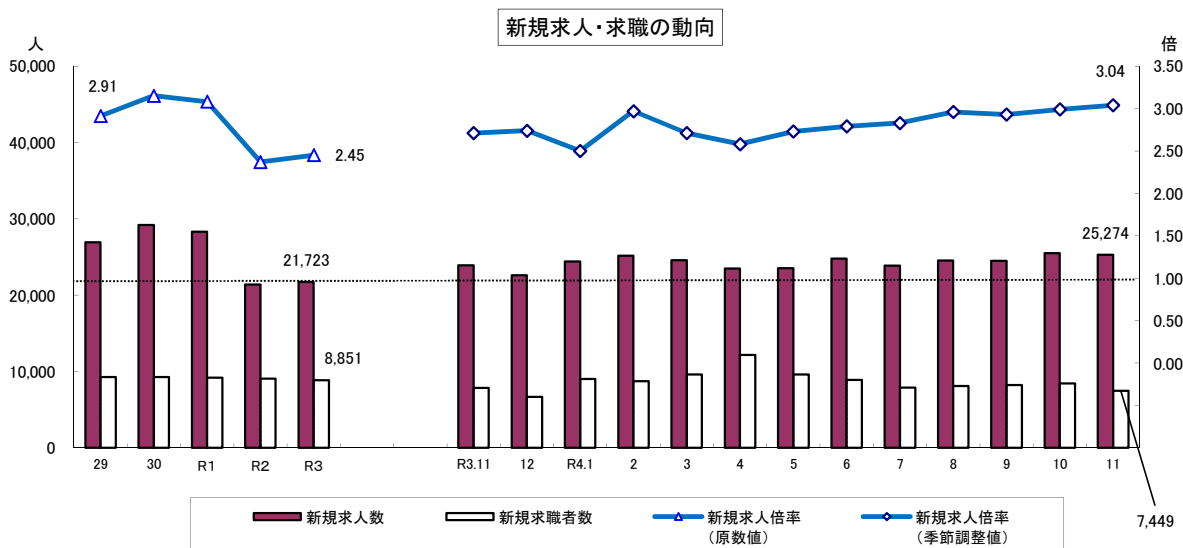
(注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。

(注3) 令和3年12月以前の季節調整値は改訂されている。(令和4年1月分公表時改訂)

2 県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和4年9月	令和4年10月	令和4年11月
新規求人倍率<季節調整値> (前月比)	2.93倍 (▲0.03ポイント)	2.99倍 (+0.06ポイント)	3.04倍 (+0.05ポイント)

【広島労働局】

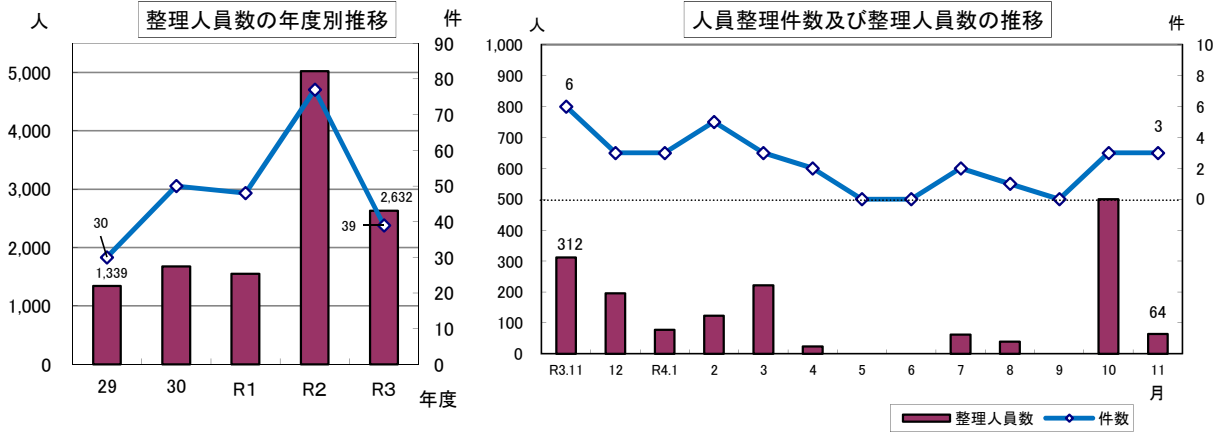


(注) 令和3年12月以前の季節調整値は改訂されている。(令和4年1月分公表時改訂)

3 県内の人員整理の状況(整理人員10人以上)

区 分	令和4年9月	令和4年10月	令和4年11月
件数 (前年同月比)	0件 (▲ 3件)	3件 (± 0件)	3件 (▲ 3件)
整理人員 (前年同月比)	0人 (▲ 125人)	500人 (+ 434人)	64人 (▲ 248人)

【広島労働局】

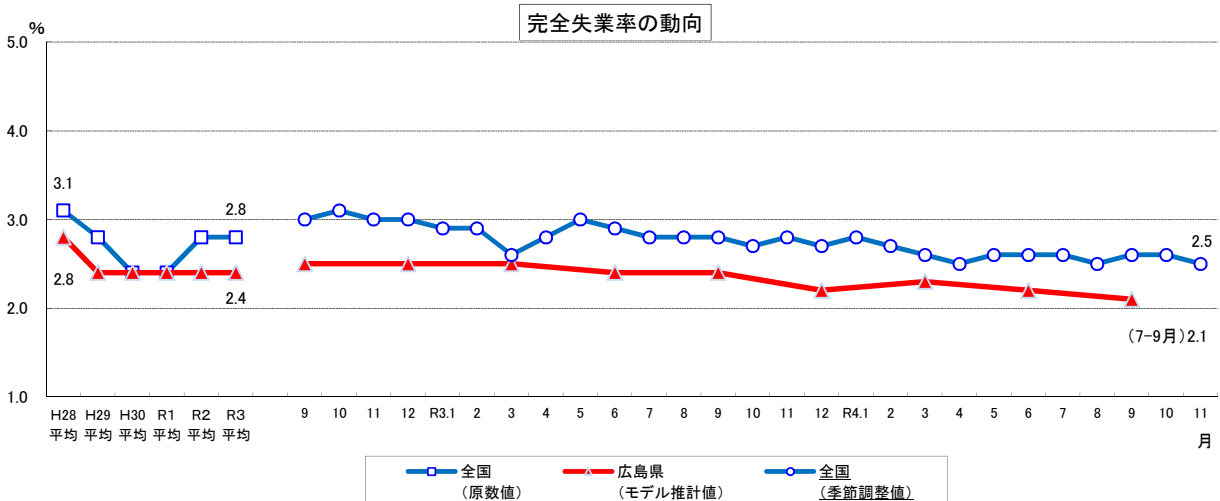


4 完全失業率の状況

区 分	令和4年9月	令和4年10月	令和4年11月
全国完全失業者数 (前年同月比)	187万人 (▲ 7万人)	178万人 (▲ 6万人)	165万人 (▲ 18万人)
全国完全失業率(季節調整値) (前月比)	2.6% (+0.1ポイント)	2.6% (±0ポイント)	2.5% (▲0.1ポイント)

区 分	令和4年		
	1~3月平均	4~6月平均	7~9月平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前年同期比)	2.3% (▲0.2ポイント)	2.2% (▲0.2ポイント)	2.1% (▲0.3ポイント)

【総務省統計局】



※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1~3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去にさかのぼって一部改定している。